

原発労働者斎藤征二さんが語る原発の現場

原発で働いて

講師 斎藤征二さん（元原発労働者）



どなたでも参加できます。

日時：6月22日（土） 15：00より

場所：あわら市中央公民館（旧金津中央公民館）
あわら市市姫一丁目9番18号
TEL 0776-73-2000

参加費：¥500

メール会員募集中

原発を考えるあわら市民の会では、原発問題に関する集会・学習会のご案内及びあわら市地域を中心とした原発関連情報を配信させていただいています。

メールニュース受信またはニュース投稿ご希望の方は、住所氏名を明記の上、下記宛てご連絡下さい。

naka-mitsu@tranzac.jp（中野）

携帯電話での受信・投稿も可能です。

被曝しながら働く原発労働者がいないと

維持できない先端技術原発

3.11前までは、エネルギーを支える最先端の科学といわれていた原発の「もうひとつの側面」がある。原発で被曝しつつ働いてきた労働者の存在をご存じでしょうか？

適切に管理されていると言われ、「公式のデータではごく一部のみに疾病がある程度」と言われながら、多くの労働者がガン死や病害に苦しんでいると言われています。最先端であるはずの原発では、人手のぞうきんがけでしか除染できない高放射線量ところもあり、危険すぎるが故に、短時間で多くの人手を要するが故に、社会の底辺の人々が、この仕事に従事していると言われます。

福井県内でも原発から離れたあわら市では、原発の実態は、マスコミ報道以外には、なかなか見えてきません。今回当会では、敦賀市にお住まいの斎藤さんに、原発労働と労働者の実態をお聴きすることにしました。自らも、多くの疾病に苦しみながら原発の実態を語る斎藤さんのお話を聴きます。

斎藤征二さんプロフィール

1940年生まれ。1967年より原発建設から十数年間各地の原発で配管工として働く。1981年、敦賀原発放射能漏れ事故が起き、直後に国内初の原発労働者の組合を創設、労働条件の改善に尽力する。2003年以降、甲状腺腫瘍、急性心筋梗塞、腰部脊柱管狭窄症、緑内障、白内障のなど、内部被曝が原因と思われる多くの疾病に見舞われている。4歳の時、南大東島で父が戦死しており、戦争の犯罪性、国家の無責任体質、沖縄問題等に子供の頃より強い関心を持ち、戦争問題は、氏の被曝労働問題で闘う姿勢の基盤となっているという。

※講演会終了後、斎藤さんを囲んで二次会を予定しています。お時間のある方はご参加下さい。

主催：原発を考えるあわら市民の会

連絡 090-3292-9029 中野